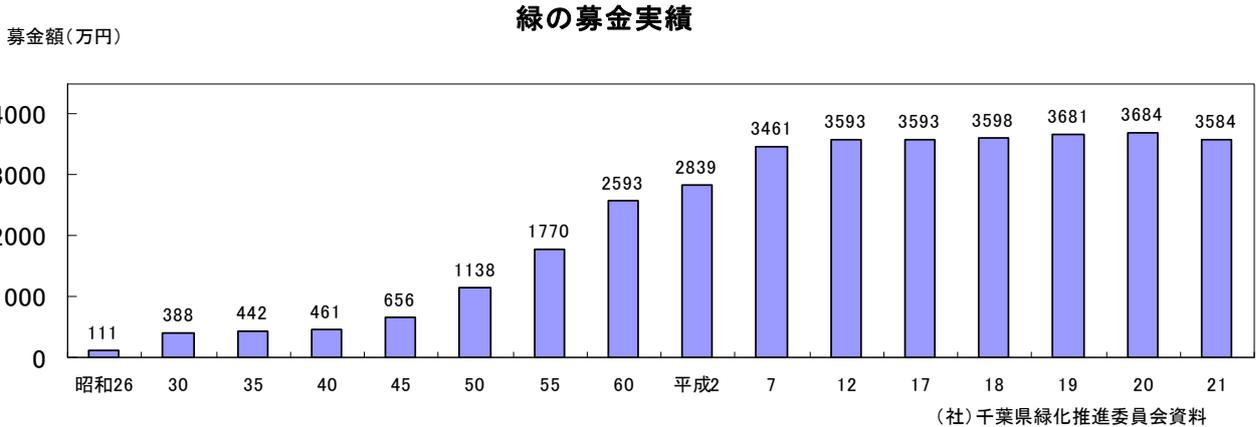


8. みどりづくり



— 県民参加のみどりづくりを進める —

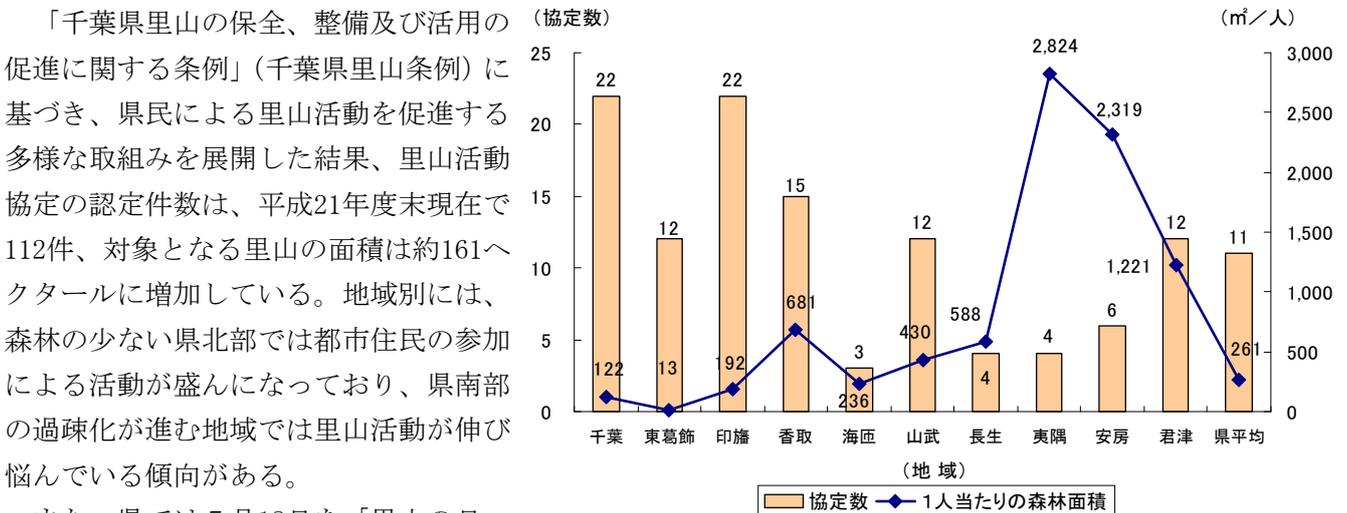
森林に代表されるみどりは、その恵みを通じて私たちの暮らしをさまざまな面から支えており、県民のみどりに対する関心やニーズは大きな高まりを見せている。

このようななか、みどりづくりへの県民参加の重要性について普及・啓発を図るため、県と社団法人千葉県緑化推進委員会は、春季の緑の募金期間中（3/1～5/31）に多彩な行事を展開している。

また、戦後の山林の復興を目標に昭和26年から始まった緑の羽根募金は、平成7年度制定された緑の募金法により「緑の募金」に引き継がれ、平成21年度の募金実績は35,843千円で、寄せられた募金は、各種の普及啓発やみどりづくりに役立てられている。

9. 里山活動

里山活動協定数と県民1人当たりの森林面積



また、県では5月18日を「里山の日」として、第6回里山フェスティバルを実施し、県民の間に広く里山活動への関心及び理解を深めるとともに、積極的に里山活動に参加する意識の高揚に努めた。この期間中、「里山と食料・水・木材」をテーマに佐倉市で開催された市民団体による里山シンポジウムや県内4地域で実施した里山体験には多くの県民が参加しており、県民の里山活動についての理解を深めることができた。

里山活動の中核組織となっている「ちば里山センター」では、里山活動団体のネットワークを構築するとともに技術講習会や里山活動体験講座などの開催、里山活動相談や「ちば里山新聞」の発行などの普及啓発事業を実施し、里山活動団体への支援と県民や企業等の里山活動への参加を促進した。